



# 板一小だより

第 449 号

令和6年4月8日発行

板橋区立板橋第一小学校

校長 荻久保 剛正

【教育目標】**知恵** 自分で考え、表現できる子 **心** 思いやりをもち、認め合える子 **元気** 心と体を大切にし、学び続ける子

【保幼小中連携】 板三中・板一小・板八小・中根橋小

「小中一貫板三エリア」4校で一貫した教育理念の下、義務教育9年間で子どもたちを育てます。

## 気持ちよく迎えた 新たな年度

校長 荻久保 剛正

お子様の進級・入学、おめでとうございます。

本年度は、全校児童543名、学級数18学級でスタートしました。

昨年度は、ゴールデンウィーク明けよりアフターコロナとなり、よりよい学校の在り方を考えつつ、子どもたちの成長へのよりよい働きかけ方を模索し、新たな取組を創造して参りました。依然として感染症への不安が残っている現状もありますが、本年度も、常に状況変化を読み取りながら、子どもたちのために早め早めに行動することのできる体制を整え、取組を進めて参ります。今後とも本校の教育活動へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

一人ひとりの子どもたちが、生き生きとそして、笑顔いっぱい安心して学校に通うことができるように、教職員が力を合わせていくことはもちろんのこと、地域や保護者の皆様、近隣の保育園・幼稚園・中学校などとも連携を密に取りながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えております。さらには、地域を好きになり、地域で活躍していくことのできる子どもたちとなるようにも心掛け、育んで参りたいと考えております。本年度も数名の教職員が新たにチーム板一に加わりました。入れ替わりはあっても、変わらず板橋第一小学校の教職員が一体となり、子どもたちを迎える体制を整え、校内が活気で満ち溢れるよう尽力して参ります。今日からは、96名の子どもたち、そして、保護者の方々も加わりました。さらに活気に満ちあふれていくことを期待します。

学習活動を通して、「子ども一人ひとりのよさを見付け、その力を伸ばすこと」に注力して参ります。そのためにも、教師自身が常に手本となり、すすんで学び、自らを変え続ける姿を見せながら、「自分からすすんで学び、自身の高まりを感じ、常に一步先を見て、自身を変え続けていくことのできる子どもたちに育てていきましょう」と伝えています。

子どもたちはどの子ども皆、よりよく成長したいという思いとぐんぐんと伸びていこうとする力を兼ね備えています。しかしながら、自分のよさは、自分ではなかなか見付けにくいものです。よさや可能性を見付け、繰り返し伝えていくことで、子どもたちの自己有用感の高まりを促していきます。子どもたちをさらによりよく伸ばすため、全職員で一丸となって全力を尽くして参ります。子どもたちを支えていくため、今年度も皆様のお力添えを得て「チーム板一」として取組を進められるよう、変わらぬご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 祝 150周年

12月7日（土）に、150周年記念式典を開催します。学校全体で、板一小の歴史を振り返り、一人ひとりの心に残る思い出づくりができるよう、取組を進めて参ります。

# 令和6年度 学校経営方針

## ～「自律」と「共生」の実現～

教師の役割：「コーディネーター」

「ファシリテーター」の2方向から

児童の学び：「Input」「Think」「Output」へ

アフターコロナとなり、一気に行動の広がりを見せた世の中。学校教育の世界も同様のスピードで変化を遂げています。コロナ対策の日々から学んだ新たな取組を創造していく活力を最大限に生かした教育革新に向かうことをめざし、次のような児童を育てていきます。新たに定着した学校での新しい生活様式をベースに、これからの時代を生き抜いていく児童の姿を創造し、今年度も新たな教育活動の創造を進めていきます。効率性も含め、学校教育全般の見直しをさらに進めていきます。自ら創造することのできる子どもたちを育てるためには、板橋区が重点として取組を進めている『読み解く力』の育成、そして、それに加えて『自ら探究し、周囲と情報を共有しながらともに高まっていく力』の育成が必要不可欠となってくると考えます。

子どもたちにとってよりよい教育活動とは何か、これからのSociety5.0（超スマート社会）時代を生き抜き、社会を形成していく児童には、一体どんな力が必要であり、小学校のこの時期にどんな経験をさせておくべきなのかを今年度も継続して追究して参ります。また、年齢に応じた発達、精神的な発達面などでも様々な変容を見せている現代の児童期を生きる子どもたちの姿をしっかりと思い描き、子どもたち自らが主体的に自分に見合った課題を見付け出し、探究しながら学びを進め、自分自身を変え続けていくことができるように育てていく必要もあると考えます。

3つの学校教育目標に基づいた学校経営を展開し、「**Society5.0の社会で生き抜く力として、自ら学び(自律)、互いに認め合う(共生)ことができ、生涯にわたって学び変え続けることのできる子どもを育てる。**」ことを、目標としさらなる取組の改善を図りつつ、教育活動を継続して参ります。

学習指導要領でフィーチャーされたワード「主体的・対話的で深い学び」を教師がしっかりと読み解き、授業の在り方、学びの方向性を改めていくと同時に、板橋区の重点施策である「読み解く力」の育成をめざし、6つの基礎的読解力を意識して教材分析を進めていきます。今年度は、昨年度より変更した「授業のコーディネーター」「授業のファシリテーター」としての教師の役割を、さらに意識し、児童が主体的に学ぶことができる場を用意することに加え、主体的に活動するための支援・働きかけの役割にも比重を置いて進めて参ります。児童には「情報の受け手」(Input)として確実に情報を受け取らせ、受けた情報を短時間で試行錯誤(Think)させます。さらに、自分自身に合った形に変えて活用していく力を高めさせるため、「表現者・発信者」(Output)として情報を発信していく能力・資質を高めていく教育を継続していきます。自分の考えをしっかりとって友達と考えを共有し合い、よりよいOutputができるよう細やかな支援を進めて参ります。

## 教育目標

### 知恵

○自分で考え、  
表現できる子

### 心

○思いやりをもち、  
認め合える子

### 元気

○心と体を大切にし、  
学び続ける子

## 《目的》



Society5.0（超スマート社会）時代に生き抜く力として必要な自ら学び（自律）、認め合う（共生）ことができ、生涯にわたって学び変え続けることのできる子どもを育てる。そのため、以下のような資質・能力の育成を図る。

- ①多くの情報から正しい情報を収集、取捨選択する力（調べる力・判断する力）
- ②獲得した情報から、新たな学び（新たな価値観）を生み出す力（創造する力）
- ③学びの過程や成果を分かりやすく表現し、他に伝える力（表現し発信する力）
- ④学びを振り返り、修正したり新たな課題を見付けたりする力（学びを再設計する力）
- ⑤知識や学び方を蓄積し、新たな課題に対して利活用していく力（自力解決する力）

## 授業革新

- ・インターネットに安易に頼ることなく、図書文献、新聞、取材等の適切な手段を活用する。
- ・GIGAスクール構想に基づき、児童が主体的に情報機器を活用する授業を推進する。  
※クロムブックは常に身近に置き、筆記用具同様の学習ツールとして児童が自らの判断で使えるようにすることを原則とする。
- ・学習の個別化を図ることに加え、コンピュータ・ネットワークを利用し、教室内外の児童等と学習の過程や成果を共有する「協働学習」を推進する。

## 「自律」と「規律」

学校生活における生活指導上のきまりなどの遵守が、合理的な根拠なく児童の多様性を排除していないか、手段と目的が逆になり単にきまりを守らせることが「目的」化していないか等を見直し続ける。きまりを守らせることが目的でなく、なぜきまりを守らなければならないのかの理由や根拠を考えさせ、自らが律することができるような児童の育成をめざす。

今年度も継続して、以下の観点から学校のきまりや行事、授業等の全教育活動を見直す。

- ①学校や学級のきまりが、児童の自律と共生を育てることにつながっているか
- ②児童の多様性を認め、児童と視線を合わせて支援を行っているか
- ③各家庭や児童本人の独自性や自律を促すことに寄与するものとなっているか

## 開かれた学校経営・学級経営

### i CS（板橋コミュニティ・スクール）の取組

- ・CS（コミュニティ・スクール）委員会と連携した学校経営体制
  - ①年間5回のコミュニティ・スクール委員会での学校経営に関わる会議
  - ②コミュニティ・スクール委員による学校参観と教育内容に関する熟議
  - ③コミュニティ・スクール委員と教職員による課題の共通理解と改善方策の合同熟議
- ・学校支援地域本部と密接に連携をした地域学校協働活動
  - ①コーディネート機能の充実
  - ②多様な活動（より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施）
  - ③継続的な活動（地域学校協働活動の継続的・安定的実施）
- ・小中一貫教育（小中一貫板三エリア）9年間の学びの継続
  - ①中学校の授業参観を基にした小中9年間の連続性のある年間授業計画の見直し
  - ②小小連携を見据えた各校での取組情報の共有
- ・学年担任制や教科担任制（交換授業）の推進
  - ①学年担任としての周知と学級担当としての取組
  - ②教科担任制に関わる交換授業（5年生・6年生及び学年状況に合わせた先行した取組）
- ・特別支援教育に関する研修の充実
  - ①年間2回の特別支援教育全体会での情報交換と新たな情報の共有

